

大野 忠之

教育福祉常任委員会委員長

「ありがとうよこすか」

大野忠之事務所

〒238-0024 横須賀市大矢部 3-1-3

TEL : 046-838-6571 FAX : 046-838-6573

URL : <http://www.ohno-tadayuki.com>

横須賀の特性生かした取り組みを

平成28年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃は大野忠之の政治活動に対し多大なる支援を賜り、深く敬意と感謝の意を表します。また、昨年4月に実施されました横須賀市議会議員選挙におきましては、改めてご信任をいただき、身に余る光栄と同時にその皆様の信頼にお応えできるよう、身を粉にして2期目の職務に取り組んで参る所存であります。本年も叱咤激励とともにご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2期目にあたり、私の1期4年間の活動を振り返りますと、まず何と言っても一貫して提言をし続けてきました「地域の特性を生かした事業」について、具体的な成果が出たということです。その一つが「ドルが使える街」です。市内のどぶ板や中央地区の店舗でドルを使って買い物や飲食ができるという企画で、「ドル旅キャンペーン」として実施され、定着しそうです。またもう一つは、市が昨年3月から開講している米海軍横須賀基地内の大学と連携した「ブリッジプログラム」です。これは市とメリーランド州立大学ユニバーシティ・カレッジアジア校が提携し、同大が横須賀市民を対象に基地内で行う英語学習で、作文入門やスピーチコミュニケーション基礎等を学び、一定以上の成績での修了者は同基地内の正規コースに編入できるものです。



現在横須賀市には歯止めのかからない人口減少を筆頭に課題が山積しています。私は、その解決に向けた有効な活性化策になるのが、「地域の特性を生かした事業」への取り組みだと思っております。横須賀ならではの特性は「米軍横須賀基地」です。これまで長い間マイナスイメージとして捉えられていた「基地のあるまち」は、著しいグローバル化が進む現代においては大変な強みになるのです。そうです。「外国人に身近に触れることができる、英語が学べるまち」です。このイメージは定住にも結びつくはずですよ。

私は「ブリッジプログラム」とあわせて、市による、幼児からの英語教育プログラムの実現も再三にわたり市議会等で働きかけております。グローバル化に対応するためには、子育て世代にとって英語教育が極めて重要視されていることは、市長も十分理解しているとし、一般質問で「これまでやってきたALT(小・中学校への外国語指導助手)の成果を検証すると同時に、市として何ができるかも検討していくので、今後提案をしてほしい」との市長答弁も受けております。

私は米軍基地で米軍司令官付民事補佐官として国と交渉した経験もあります。「基地を活かしたまちづくり」は私の強みを生かせる政策であり、私のライフワークです。

また、私は医療・介護施設の経営者でもあります。日本は戦後の高度成長期には人口も増え、家族構成も大家族が多く高齢者の介護も家族が助け合いながら在宅介護ができていました。しかし少子高齢化が進み、家庭も核家族となり在宅介護が難しくなっています。今、私たちが考えなくてはならないのは今の日本を築いた高齢者の方々がどのような思いでいるのか。私たちが何をすべきか。私たちには何ができるのか。ここにも身近に高齢者と接している私だからできることがあります。その使命を胸に、2期目もチャレンジを続けてまいります。